

# DEBUT 首長

和歌山県橋本市長 平木 哲朗氏

## 優先順位付け政策絞り込み 27企業進出、地元雇用狙う



ひらき・てつろう 1957年和歌山県橋本市生まれ。79年近畿大商経学部卒、ニチイ入社。損保代理店などを経て99年に橋本市議に初当選。その後県議を7年務めて今年3月に橋本市長に初当選した。57歳。

**橋本市** 県北東部に位置し、大阪府河内長野市、奈良県五條市と接する。人口6万6000人は県内第3位。古くから交通の要衝として発展し、現在も京奈和自動車道と国道24号が東西に、国道371号が南北に走る。2006年にパイル織物で知られる高野口町と合併して現在の橋本市となった。

——当選直後、「市政の現状を再チェックして、政策の優先順位を検討したい」と話していた。就任後の分析結果は。

大きな、お金のかかる事業ばかりが残っている印象だ。学校や公的施設の老朽化対策、市街地再開発に市民病院の経営……。市民病院は看護師が集まらないのが厳しい。これが確保できないと300の病床を維持するのが難しくなる。いずれにせよ、遅らせていいものは後にして、やめていいものは思い切ってやめる。いまは職員に知恵を出してもらっているところだ。「どうしましょう」ではなく「こうしたい」と。

——多くの課題の中でまず取り組むべきは。

企業誘致は順調だ。橋本は津波の心配がなく、地価が安い。

紀北橋本エコヒルズには27社の進出が決まっており、20社がすでに操業している。さらに問い合わせも来ており、すでに（奈良県境に近い）あやの台の開発にも県などとともに着手している。京奈和自動車道は2015年度中に和歌山市内まで開通し、その翌年には奈良県大和郡山市までつながる。こうした交通網の整備は大きなビジネスチャンスと考えている。

誘致とともに、進出企業まわりも続けているが、業績は上向きようで心強い。ぼちぼち人を増やそうか、という企業も出てきており、これを是非地元採用につなげたい。こうした動きを地元の経済立て直しにつなげるため、4月から地場産業振興センターに専従職員を2人配置した。商工会議所やJAなどにも協力してもらって、チーム橋本として一緒に地域活性化に取り組んでいく。

観光についても、地元企業などと観光戦略協議会を立ち上げたところだ。高野山や九度山町に来た人をいかに橋本に呼び込み周遊させるか、検討してい

たい。高野山開創1200年や国体が開催される来年はもちろん、それ以降の展開も今から考えていかなければいけない。

——大和郡山市とは県境を越えた自治体クラウドの構築を決めた。両市合わせて5年間で5億4000万円以上の経費削減効果があるという。

大和郡山は来年度からだ、橋本は10月から利用を開始する予定だ。現在、市民の証明書発行などの7割が本庁舎での利用となっているが、様々な料金の納付などの業務をコンビニエンスストアなどに移行できれば、職員を違うところに配置できる。そうした見えにくいコスト削減効果も見込んでいる。

近畿のほかの自治体にも参加を呼びかけていきたい。これまでベンダーとの交渉はあちらの言い値で進められてきたが、こちらの発言力が増せば価格競争力が出てくる。そうした面の経済効果も期待している。

（聞き手は

和歌山支局長 土田 昌隆）